

令和4年度（2022年度）第7回公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日時：令和4年（2022年）10月11日（火）午前10時～11時45分

場所：大会議室

出席：学長 堤 裕昭
副学長 鈴木 元
事務局長 倉光 麻里子
文学部長 村尾 治彦（リモート参加）
環境共生学部長 石橋 康弘（リモート参加）
総合管理学部長 澤田 道夫（リモート参加）
共通教育センター長 山田 俊（リモート参加）
デジタルイノベーション推進センター長 飯村 伊智郎（リモート参加）
国際教育交流センター長 レイヴィン リチャード
（リモート参加）

株式会社 熊本日日新聞社 調査役 松下 純一郎

熊本県公立高等学校長会 会長 牛田 卓也

監事：弁護士 本田 悟士

欠席：学校法人 九州ルーテル学院 院長 内村 公春

地域・研究連携センター長 柴田 祐

委員以外の出席：文学研究科長 米谷 隆史（リモート参加）

アドミニストレーション研究科長 小泉 和重（リモート参加）

事務局：川元事務局次長、二宮総務課長、三隅教務入試課長、山村教務入試課入試班長、尾方（圭）教務入試課教務班長、塩田教務入試課主事

1 開会

2 学長挨拶

3 議事

（1）審議事項

- ① 令和5年度（2023年度）春季入学入学者選抜（大学院文学研究科・秋季募集）における合格者の決定について

事務局教務入試課から、資料1に基づき「春季入学入学者選抜（大学院文学研究科博士課程前期及び後期課程）における入試を9月24日に実施し、27日に文学研究科委員会において合否の判定を行ったのでご審議いただきたい。審議の結果、本日午後1時30分から合否の発表予定。」との説明があった。続いて、米谷文学研究科長から資料1-2に基づき、「前期課程日本語日本文学専攻（一般選

抜)について志願者数、及び受験者数は1名。試験は、専門科目100点、面接30点で実施。総得点6割以上の合格基準を満たしているため合格としたい。」と説明があった。

引き続き、資料1-3に基づき、「前期課程日本語日本文学専攻(国際協力枠)について志願者数、及び受験者数は1名。試験は、専門科目100点、面接30点で実施。総得点6割以上の合格基準を満たしているため1名を合格としたい。」と説明があった。

資料1-4に基づき、「前期課程英語英米文学専攻(一般選抜)について志願者数、及び受験者数はそれぞれ2名。試験は、専門科目300点、面接100点で実施。2名とも総得点6割以上の合格基準を満たしているため合格としたい。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

② 令和5年度(2023年度)春季入学入学者選抜(大学院アドミニストレーション研究科)における合格者の決定について

事務局教務入試課から、資料2に基づき「春季入学入学者選抜(大学院アドミニストレーション研究科博士課程前期)における入試を9月24日に実施し、29日にアドミニストレーション研究科委員会において合否の判定を行ったのでご審議いただきたい。審議の結果、本日午後1時30分に合否発表を予定。」との説明があった。続いて、小泉研究科長から資料2-2に基づき、「前期課程(一般選抜)について志願者数、及び受験者数は1名。試験は、英語100点、専門科目200点、面接200点で実施。総得点6割以上の合格基準を満たしているため合格としたい。」と説明があった。

同じく資料2-3に基づき、「前期課程(国際協力枠)について志願者数、及び受験者数は1名。試験は、英語100点、専門科目200点、面接200点で実施。総得点6割以上の合格基準を満たしているため合格としたい。」と説明があった。

引き続き、資料2-4に基づき、「前期課程社会人特別選抜について志願者数、及び受験者数は1名。試験は、英語100点、専門科目200点、面接200点で実施。総得点6割以上の合格基準を満たしているため合格としたい。」と説明があった。

最後に資料2-5に基づき、「前期課程社会人特別選抜(国際協力枠)について志願者数、及び受験者数は1名。試験は、英語100点、専門科目200点、面接200点で実施。総得点6割以上の合格基準を満たしているため合格としたい。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

③ 令和5年度(2023年度)入学者選抜実施方針の一部変更について

事務局教務入試課から、資料3に基づき、「第1回教育研究会議において令和5年度入学者選抜実施方針について審議済みであり、すでに公表しているが、その後、文部科学省から『令和5年度大学入学者選抜実施要領』及び公立大学協会の『公立大学の2023年度入学者選抜についての実施要領』より新型コロナウイルス対策関連の措置が示されたことにより、本学の対応においても一部変更が生じたため、御審議いただくもの。審議後11月以降大学ホームページ等で公表予定。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

④ 教員の採用にについて

事務局総務課から、資料4に基づき、教員の採用について採用予定者、採用科目、採用予定日及びこれまでの審査の経過等について説明があった。

続いて、関係学部長・共通教育センター長から次のとおり説明があった。

・文学部

村尾文学部長から資料4-3に基づき、「英語学・言語学・対照言語学」の採用人事について、「公募に対し18名の応募があり、文学部内で選考手続きを進め、今回の候補者1名を選定した。」との説明があった。

・総合管理学部

澤田総合管理学部長から資料4-4に基づき、「産業政策論」の採用人事について、「公募に対し、7名の応募があり、総合管理学部内で選考手続きを進め、今回の候補者1名とその辞退があった場合の候補者を選定した。」との説明があった。

・共通教育センター

山田共通教育センター長から資料4-5に基づき、「英語教育」の採用人事について、「公募に対し6名の応募があり、共通教育センター内で選考手続きを進め、今回の候補者1名を選定した。」との説明があった。

また同じく、山田共通教育センター長から資料4-6に基づき、「データサイエンス」の採用人事について、「公募に対し11名の応募があり、共通教育センター内で選考手続きを進め、今回の候補者1名を選定した。」との説明があった。

引き続き、全学資格審査委員会議長である堤学長から、資料4-2に基づき、「文学部の採用予定者については助教での採用が適当である。また、総合管理学部の採用予定者については助教での採用が適当である。共通教育センター「英語

教育」と「データサイエンス」の採用予定者についてはそれぞれ准教授での採用が適当である。以上、全学資格審査委員会において判定した。」との報告があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

⑤ 教員採用に係る枠取りについて

澤田総合管理学部長から、資料5に基づき、「総合管理学部では、新規分野として『情報工学』の教員枠取りを提案する。現在、学部のあり方を見直しており、学部情報部門ではCPS（サイバーフィジカルシステム）やIoT、本学が取り組んでいるデータサイエンスに関連する専門分野を望んでおり、共通教育センターの「データサイエンス」とは異なり、学部情報部門が目指す社会実装を念頭に置いたシステム情報の強化が狙い。また、SPARCの採択に伴い、熊本大学との連携を要するため、特例だが、令和5年4月の採用を予定。御審議をお願いする。」と説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

(2) 報告事項

① 非常勤講師の採用について

事務局教務入試課から、資料6に基づき、「後学期開講の常勤教員の科目について、急遽、非常勤講師の採用を要したため、規程により、直近である本会議において、採用の報告を行うもの。」と説明があった。

4 その他

次回日程 令和4年度（2022年度）第8回 11月1日（火）午前10時～
大会議室

5 閉会